

ブリの回遊生態を探る

研究分野

水産資源を管理・利用する

ねらい

- ・ ブリの資源研究を進め、資源管理などに役立てる目的で、ブリの回遊生態（いつ・どこを回遊しているのか）を調べるため、記録型標識（アーカイバルタグ）をブリの体内に埋め込み、放流する調査を行った。
- ・ アーカイバルタグにはコンピュータが内蔵され、標識魚が放流されてから再び捕獲されるまで、標識魚の日毎の位置情報（緯度、経度）を計算しながら記録する。
- ・ 再び捕獲された魚体からタグを回収し、タグに記録されたデータを読み出して解析すると、標識魚の移動の経過がわかる。

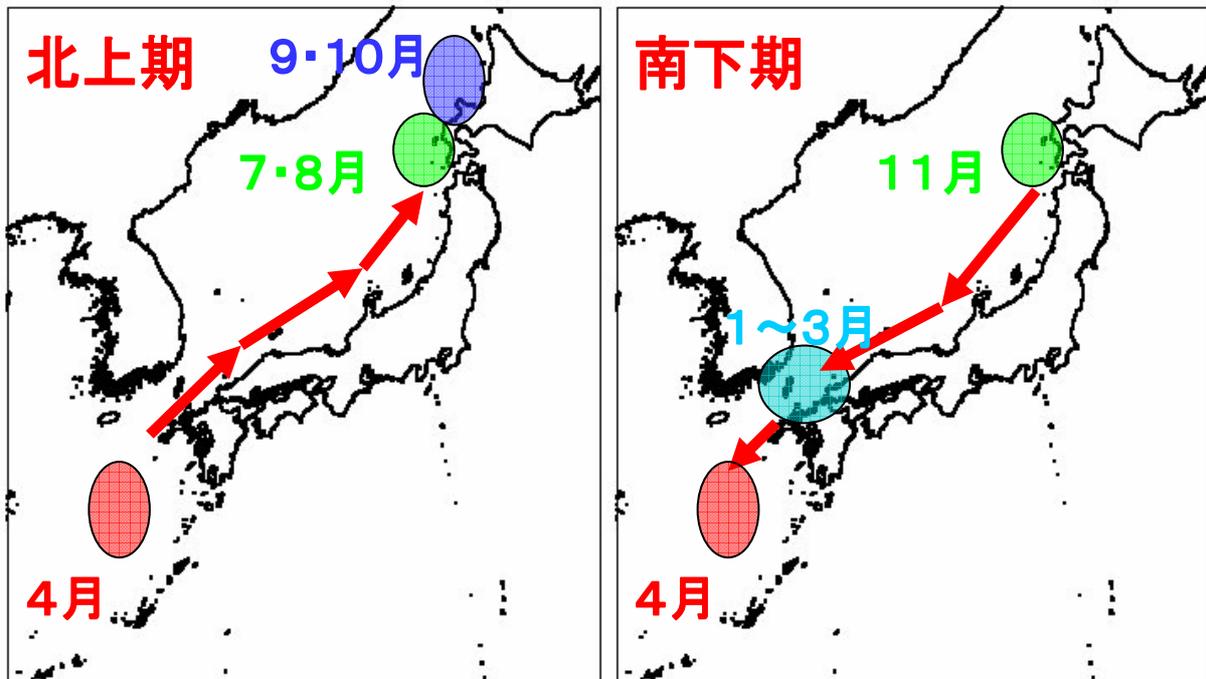
成果

- ・ ブリは3歳の南下期（秋～冬、体重10kg前後）以降、産卵場である東シナ海（春季）と北海道の沿岸域（夏～秋季）に至る間を往復するパターンで回遊することがわかった。
- ・ 富山湾で獲れるブリは、この回遊パターンで日本海を南下する魚であることがわかった。
- ・ ブリの北上、南下回遊のスピードなど、詳しい移動・回遊の状況がわかり、富山湾への来遊時期（タイミング）をつかむことができた。
- ・ 東シナ海と北海道の沿岸域を往復するパターンのほかに、東シナ海と能登半島沖や山陰沖の間を往復する回遊パターンや、能登半島沖などに長期間（1年以上）滞留し続けるなど、ブリの回遊には幾つかのパターンがあることがわかった。

活用

- ・ 富山湾で獲れるブリが、いつ頃、どこから、どのように来て、どこへ行くのかがわかったことから、富山県の漁獲量や漁獲時期の予測などに役立てることができた。

図1 東シナ海と北海道の沿岸域を往復するブリの回遊パターン例



研究実施期間 平成13年度～平成16年度
問い合わせ先 富山県水産試験場(076-475-0036)